

フィジカルアセスメント

[講義・演習] 第6学年 前期 選択 1単位

《担当者名》教授 / 泉 剛

教授 / 飯塚 健治 助教 / 藤崎 博子 非常勤講師 / 山口 俊司 (アイン薬局)

【概要】

フィジカルアセスメント（診察によって患者さんの身体所見を得て、病状を評価すること）は、薬の有効性や有害作用を確認するために必要な技能である。また、在宅訪問診療などで、他の医療スタッフとコミュニケーションをとる際にもフィジカルアセスメントの知識が必要である。本科目はフィジカルアセスメントの実習を含む講義であり、卒後の薬剤師実務に役立つことを目指している。

【学修目標】

バイタルサイン（意識、呼吸、脈拍、血圧、体温）および胸腹部、神経系の身体所見の取り方を実際に経験し、その臨床的意義について理解し、説明できる。

バイタルサインについては独力でも所見を取ることができるようになる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	胸部の診察	胸部におけるフィジカルアセスメントの実際と所見から得られる患者の状況を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -8	飯塚 健治
2	腹部の診察	腹部におけるフィジカルアセスメントの実際と所見から得られる患者の状況を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -8	飯塚 健治
3	意識障害・認知症の評価 資料を配布する。 教科書2:p424～p433 教科書2:p548～p551	代表的な意識障害および認知症の評価スケールの使用法と所見から得られる患者の状況を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -8	泉 剛
4	神経系の診察法 資料を配布する。	神経系におけるフィジカルアセスメントの実際と所見から得られる患者の状況を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -8	泉 剛
5 ┆ 6	呼吸音・心音の聴診、血圧測定	特徴的な病態における肺音、心音、腸音について説明できる。 バイタルサインから疾病を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(3)- -4	藤崎 博子
7 ┆ 8	在宅訪問診療シミュレーション（簡単な症例）	認知症患者の在宅訪問において修得したフィジカルアセスメント等により患者を評価、適切な薬物治療を提案することができる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(3)- -3、F-(5)- -1	山口 俊司
9 ┆ 10	在宅訪問診療シミュレーション（複雑な症例）	がん終末期患者の在宅訪問において修得したフィジカルアセスメント等により患者を評価、適切な薬物治療を提案することができる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 F-(3)- -3、F-(5)- -1	山口 俊司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

到達目標への到達度を実習レポート（100%）により評価する。

【教科書】

1. 「薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント」河野 茂 監修 南江堂
2. 「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」尾上 尚志 他監修 MEDIC MEDICO
3. 「診察と手技がみえる vol.1 第2版」古谷伸之 編 MEDIC MEDICA

【学修の準備】

当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと（100分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E1 薬の作用と体の変化

(2) 身体の病的変化を知る 症候 病態・臨床検査

F 薬学臨床

(3) 薬物療法の実践 患者情報の把握

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 在宅（訪問）医療・介護への参画

【薬学準備教育ガイドライン】

F 薬学臨床

【 患者情報の把握】

【 在宅（訪問）医療・介護への参画】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

泉 剛（医師）、飯塚 健治（医師）、藤崎 博子（薬剤師）、山口 俊司（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての実務経験をもとに、臨床に即したフィジカルアセスメントの講義、実習を行う。